

米国農務省穀物等需給報告(2023年4月11日発表のポイント)

令和5年4月12日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、4月11日(現地時間)、2022/23年度の12回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2022/23年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み) (※↑↓は前月見通しからの増減)

- ① 生産量: 27億 3,473万トン(対前年度比 2.2%減) ↓
- ② 消費量: 27億 6,446万トン(対前年度比 1.4%減) ↑
- ③ 期末在庫量: 7億 5,843万トン(対前年度比 3.8%減) ↓
期末在庫率: 27.4%(対前年度差 0.7ポイント減) ↓

【主な品目別の動向】

小麦 : 世界の生産量は、エチオピア等で生産量が引き上げられたことから上方修正され、史上最高となる見通し。世界の消費量は、インドで食用等需要、中国で飼料用等需要が引き上げられたこと等から、前月から上方修正され、史上最高となる見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。なお、米国の生産量は前月予測から変更はない。また、ロシア、ウクライナの輸出量は前月から上方修正された。一方、中国の輸入量が上方修正され、世界1位の輸入国になる見通し。

- 1 生産量: 7億 8,902万トン(対前年度比 1.3%増) ↑ ・・ロシア、カナダ、カザフ、豪州、ブラジル等で増加、ウクライナ、アルゼンチン、インド、EU等で減少
- 2 消費量: 7億 9,606万トン(対前年度比 0.3%増) ↑ ・・EU等で増加、インド、中国等で減少(前月に比べインド、中国、EUで上方修正)
- 3 期末在庫量: 2億 6,505万トン(対前年度比 2.6%減) ↓ ・・ロシア、中国、豪州等で増加、インド、米国、ウクライナ等で減少(前月に比べインドで下方修正)
期末在庫率: 33.3%(対前年度差 1.0ポイント減) ↓

とうもろこし : 世界の生産量は、ロシアで引き上げられたものの、アルゼンチンで3月の高温により単収が引き下げられたことや、ハンガリー等 EU での生産量が引き下げられたこと等から、前月から下方修正され、前年度を下回る見通し。世界の消費量は、前年度を下回る見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。なお、米国の生産量、期末在庫量は前月予測から変更はない。また、ウクライナ、ロシアの輸出量は上方修正された。

- 1 生産量: 11億 4,450万トン(対前年度比 6.0%減) ↓ ・・ブラジル、中国等で増加、米国、EU、ウクライナ、アルゼンチン等で減少(前月に比べアルゼンチンで下方修正)
- 2 消費量: 11億 5,606万トン(対前年度比 3.9%減) ↓ ・・中国、ブラジル等で増加、米国、EU、ウクライナ、カナダ、アルゼンチン、エジプト等で減少
- 3 期末在庫量: 2億 9,535万トン(対前年度比 3.8%減) ↓ ・・ブラジル等で増加、ウクライナ、EU等で減少
期末在庫率: 25.5%(対前年度差 0.03ポイント増) ↓

コメ(精米) : 世界の生産量は、インドネシアの単収、収穫面積が引き下げられたこと等から、前月から下方修正され、前年度を下回る見通し。世界の消費量は米国等で上方修正され史上最高となる見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。

- 1 生産量: 5億 942万トン(対前年度比 0.9%減) ↓ ・・インド等で増加、中国、パキスタン等で減少
- 2 消費量: 5億 2,005万トン(対前年度比 0.2%増) ↑
- 3 期末在庫量: 1億 7,137万トン(対前年度比 5.8%減) ↓ ・・中国等で減少
期末在庫率: 33.0%(対前年度差 2.1ポイント減) ↓

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、ブラジルで上方修正されたものの、アルゼンチンで3月の高温・乾燥により生産量が引き下げられたこと等から前月から下方修正された。しかしながら、依然として史上最高となる見通し。世界の消費量は、アルゼンチン、中国等で引き下げられるも、前年度を上回る見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。

- 1 生産量: 3億 6,964万トン(対前年度比 2.7%増) ↓ ・・ブラジル、パラグアイ、中国等で増加、アルゼンチン、米国等で減少(前月に比べアルゼンチンで下方修正)
- 2 消費量: 3億 6,583万トン(対前年度比 0.8%増) ↓ ・・中国、ブラジル等で増加、アルゼンチン等で減少(前月に比べアルゼンチンで下方修正)
- 3 期末在庫量: 1億 29万トン(対前年度比 0.6%増) ↑ ・・ブラジル、中国等で増加、アルゼンチン等で減少
期末在庫率: 27.4%(対前年度差 0.1ポイント減) ↓

世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2023年4月11日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23		(参考) 2012/13	
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は「前年度差」)		前月差
全体							
生産量		2,725.40	2,796.37	2,734.73	▲ 2.2%	▲ 3.7	2,295.7
消費量		2,747.42	2,804.78	2,764.46	▲ 1.4%	▲ 1.2	2,284.4
期末在庫量		796.57	788.17	758.43	▲ 3.8%	▲ 4.5	480.9
期末在庫率		29.0%	28.1%	27.4%	▲ 0.7	▲ 0.2	21.1%
小麦							
生産量		774.41	779.13	789.02	▲ 1.3%	▲ 0.1	660.5
消費量		787.74	793.36	796.06	▲ 0.3%	▲ 2.9	680.0
期末在庫量		286.33	272.09	265.05	▲ 2.6%	▲ 2.2	181.1
期末在庫率		36.3%	34.3%	33.3%	▲ 1.0	▲ 0.4	26.6%
粗粒穀物							
生産量		1,441.67	1,503.40	1,436.29	▲ 4.5%	▲ 3.3	1,159.1
消費量		1,456.02	1,492.26	1,448.36	▲ 2.9%	▲ 1.7	1,139.5
期末在庫量		322.94	334.08	322.01	▲ 3.6%	▲ 0.4	175.7
期末在庫率		22.2%	22.4%	22.2%	▲ 0.2	▲ 0.0	15.4%
とうもろこし							
生産量		1,129.42	1,217.00	1,144.50	▲ 6.0%	▲ 3.0	898.8
消費量		1,144.01	1,202.92	1,156.06	▲ 3.9%	▲ 0.7	877.4
期末在庫量		292.83	306.91	295.35	▲ 3.8%	▲ 1.1	144.8
期末在庫率		25.6%	25.5%	25.5%	▲ 0.03	▲ 0.1	16.5%
コメ(精米)							
生産量		509.32	513.85	509.42	▲ 0.9%	▲ 0.4	476.1
消費量		503.65	519.16	520.05	▲ 0.2%	▲ 0.1	464.9
期末在庫量		187.31	182.00	171.37	▲ 5.8%	▲ 2.0	124.1
期末在庫率		37.2%	35.1%	33.0%	▲ 2.1	▲ 0.4	26.7%

【大豆】

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23		(参考) 2012/13	
				(予想)	前年度比		前月差
生産量		368.60	359.80	369.64	▲ 2.7%	▲ 5.5	268.8
消費量		363.97	363.00	365.83	▲ 0.8%	▲ 5.3	265.2
期末在庫量		100.35	99.73	100.29	▲ 0.6%	▲ 0.3	58.4
期末在庫率		27.6%	27.5%	27.4%	▲ 0.1	▲ 0.5	22.0%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(April 11, 2023)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2023年4月11日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (予想)	2022/23		(参 考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		429.86	448.60	408.46	▲ 8.9%	-	353.0
消費量		351.24	360.68	348.02	▲ 3.5%	▲ 0.8	317.1
輸出量		107.23	94.85	72.41	▲ 23.7%	0.0	51.6
期末在庫量		58.40	57.85	53.74	▲ 7.1%	0.6	44.2
期末在庫率		12.7%	12.7%	12.8%	0.1	0.2	12.0%
小麦							
生産量		49.75	44.80	44.90	0.2%	-	61.3
消費量		30.41	29.61	29.94	1.1%	▲ 0.7	37.8
輸出量		27.05	21.78	21.09	▲ 3.2%	-	27.5
期末在庫量		23.00	19.01	16.28	▲ 14.4%	0.8	19.5
期末在庫率		40.0%	37.0%	31.9%	▲ 5.1	2.0	29.9%
粗粒穀物							
生産量		372.89	397.71	358.47	▲ 9.9%	-	285.3
消費量		315.97	326.28	313.28	▲ 4.0%	▲ 0.3	275.5
輸出量		77.21	70.46	49.38	▲ 29.9%	▲ 0.0	20.7
期末在庫量		34.01	37.58	36.56	▲ 2.7%	▲ 0.0	23.5
期末在庫率		8.6%	9.5%	10.1%	0.6	0.0	7.9%
とうもろこし							
生産量		358.45	382.89	348.75	▲ 8.9%	-	273.2
消費量		306.69	317.12	303.67	▲ 4.2%	▲ 0.3	263.0
輸出量		69.78	62.78	46.99	▲ 25.2%	-	18.5
期末在庫量		31.36	34.98	34.08	▲ 2.6%	-	20.9
期末在庫率		8.3%	9.2%	9.7%	0.5	0.0	7.4%
コメ(精米)							
生産量		7.22	6.08	5.09	▲ 16.3%	-	6.3
消費量		4.86	4.80	4.79	▲ 0.2%	0.1	3.8
輸出量		2.97	2.61	1.94	▲ 25.7%	0.1	3.4
期末在庫量		1.39	1.26	0.89	▲ 29.4%	▲ 0.3	1.2
期末在庫率		17.8%	17.0%	13.2%	▲ 3.8	▲ 4.4	16.1%

【大豆】

項目	年度	2020/21	2021/22 (見込み)	2022/23 (予想)	2022/23		(参 考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		114.75	121.53	116.38	▲ 4.2%	-	82.8
消費量		60.91	62.77	63.69	1.5%	-	48.6
輸出量		61.67	58.72	54.84	▲ 6.6%	-	36.1
期末在庫量		6.99	7.47	5.72	▲ 23.4%	-	3.8
期末在庫率		5.7%	6.1%	4.8%	▲ 1.3	-	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(April 11, 2023)

「Oilseeds : World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、コメ(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds : World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

世界の穀物等の価格動向 (2023年)

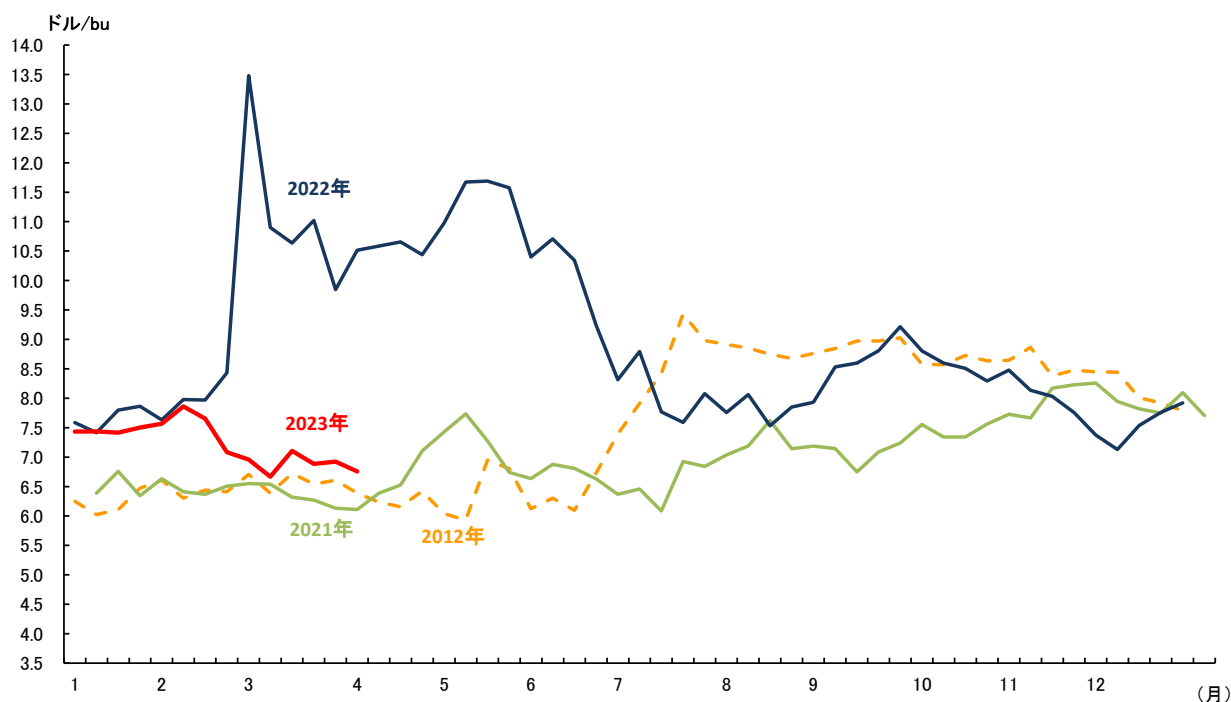
● 小麦 : 6.76 ドル/bu (前年同時期の価格 : 9.85 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における2023年4月第1週末のセツルメント価格。なお、4月7日(金)は休場のため、6日(木)の価格。史上最高値 : 14.25 ドル/bu(2022年3月7日)】

1月に入り、ロシア、ウクライナ等からの供給増加等から7ドル/bu台前半に値を下げたものの、冬小麦生産地の米国大平原で乾燥による作柄悪化懸念から7ドル/bu台半ばに値を上げた。その後、同地で降雨があり7ドル/bu台前半に値を下げたものの、次いで寒波に見舞われ作柄悪化が懸念されたことから7ドル/bu台半ばに値を上げた。

2月に入り、7ドル/bu台半ばで推移したものの、ロシアとウクライナの戦闘激化による黒海経由のウクライナ産穀物輸出の先行き懸念等から2月半ばに7ドル/bu台後半に値を上げた。その後、ドル高や米国産のロシア等の黒海産との競合、乾燥が続いていた米国プレーンズでの降雨等から6ドル/bu台後半に値を下げた。

3月に入り、米国産への低調な需要や、黒海経由のウクライナ産穀物輸出を巡る合意の再延長の見通し等から6ドル/bu台半ばに値を下げたものの、同合意の再延長をめぐる不透明感から7ドル/bu台前半に値を上げた。その後、18日の合意再延長を受け6ドル/bu台半ばに値を下げたものの、米国産冬小麦への乾燥天候の影響懸念等から値を上げ、3月末現在、6ドル/bu台後半で推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

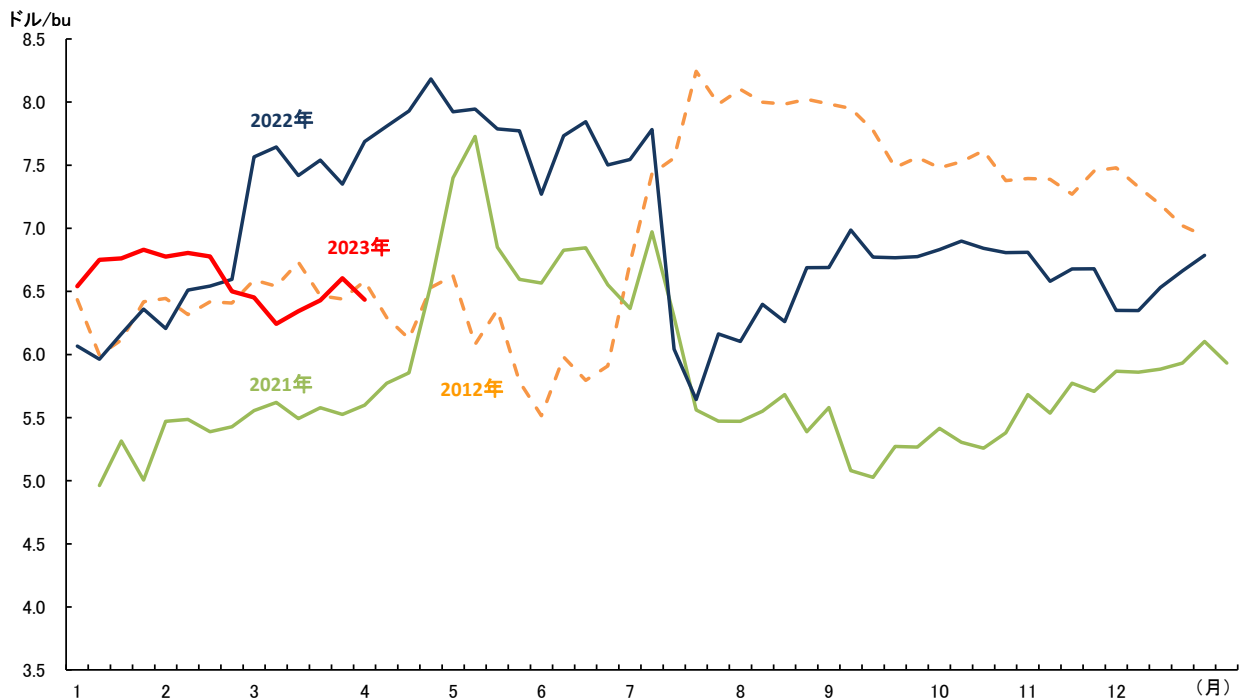
● とうもろこし：6.44 ドル/bu （前年同時期の価格：7.35 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における2023年4月第1週末のセトルメント価格。なお、4月7日(金)は休場のため、6日(木)の価格。史上最高値：8.31ドル/bu(2012年8月21日)】

1月に入り、原油相場の下落や世界的な景気減速等から6ドル/bu台半ばに値を下げたものの、干ばつによるアルゼンチンの減産懸念等から6ドル/bu台後半に値を上げた。その後、アルゼンチンの降雨等から6ドル/bu台半ばに値を下げたものの、米国産の輸出需要増やアルゼンチンの乾燥天候予測等から6ドル/bu台後半に値を上げた。

2月に入り、米国産の低調な輸出状況の一方、アルゼンチンの高温・乾燥による減産懸念やブラジルの大豆収穫遅れに伴う冬とうもろこしの作付け遅れ、ロシアとウクライナの戦闘激化による黒海経由のウクライナ産穀物輸出の先行き懸念等からほぼ横ばいの6ドル/bu台後半で推移したものの、2月中旬以降、米国農務省農産物展望会議での供給拡大予想や、ドル高、米国産の輸出需要の減少懸念等から6ドル/bu台前半値を下げた。

3月に入り、米国産の低調な輸出状況やUSDA 3月需給報告の予想を上回る米国の在庫量から6ドル/bu台前半に値を下げたものの、アルゼンチンの高温・乾燥による減産懸念や、黒海経由のウクライナ産穀物輸出を巡る合意の再延長をめぐる不透明感、米国産の中国向け輸出需要、米国の低水準の在庫量から値を上げ、3月末現在、6ドル/bu台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セトルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

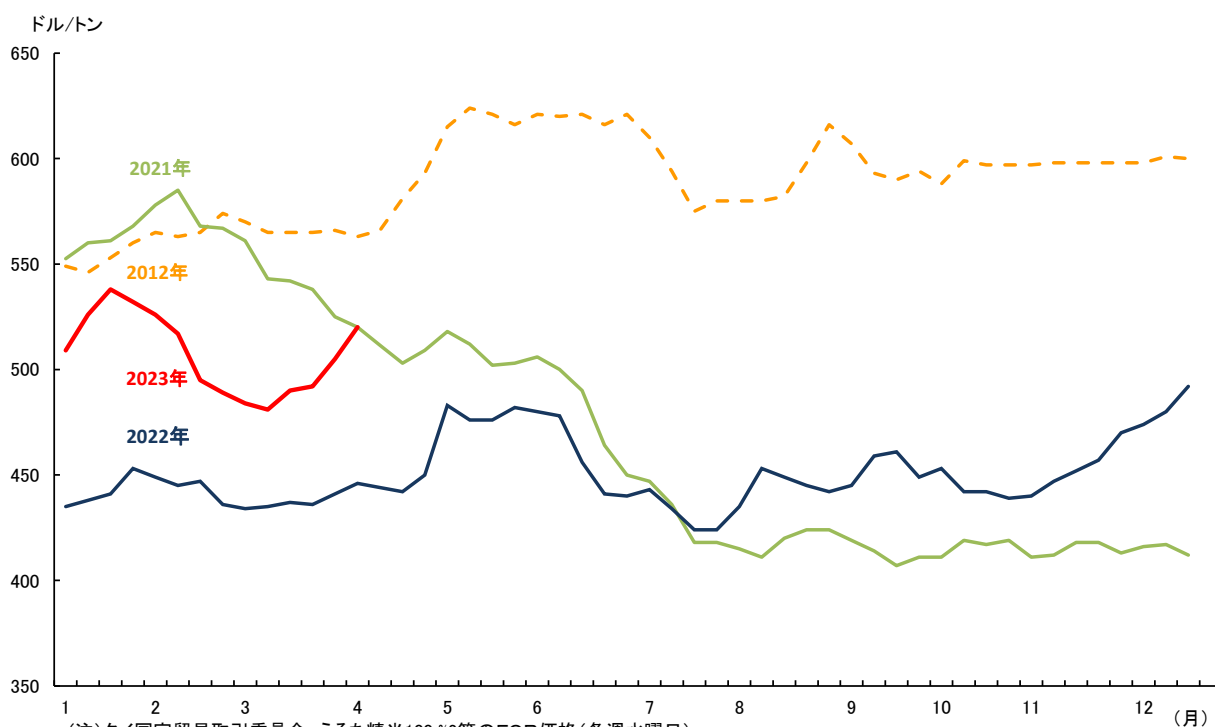
●コメ：520 ドル/トン（前年同時期の価格：446 ドル/トン）

【価格は、タイ国家貿易取引委員会における2023年4月第1水曜日のFOB価格。史上最高値：1,038ドル/トン(2008年5月21日)】

1月に入り、更なるパーツ高や、インドネシアによる政府備蓄不足回復のためのタイ産の輸入増、中東諸国からの需要増により530ドル/トン台後半に値を上げた。

2月に入り、タイ国内での新穀(乾季米)の流通による供給増加見通しや、他国の国内市場でも新穀が流入したことで海外からの需要が軟化したこと、パーツ安、多くの輸入国での旧正月前に積み増した在庫が残っていること等から値を下げ、480ドル/トン台後半で推移。

3月に入り、新穀(乾季米)の市場への流入による供給増加見通しや、低調な海外からの需要、パーツ安等により、一時480ドル/トン台前半まで値を下げた。その後、マレーシアやフィリピン等のアセアン諸国及び西アフリカ諸国の需要増により値を上げ、3月下旬現在、500ドル/トン前後で推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格推移。

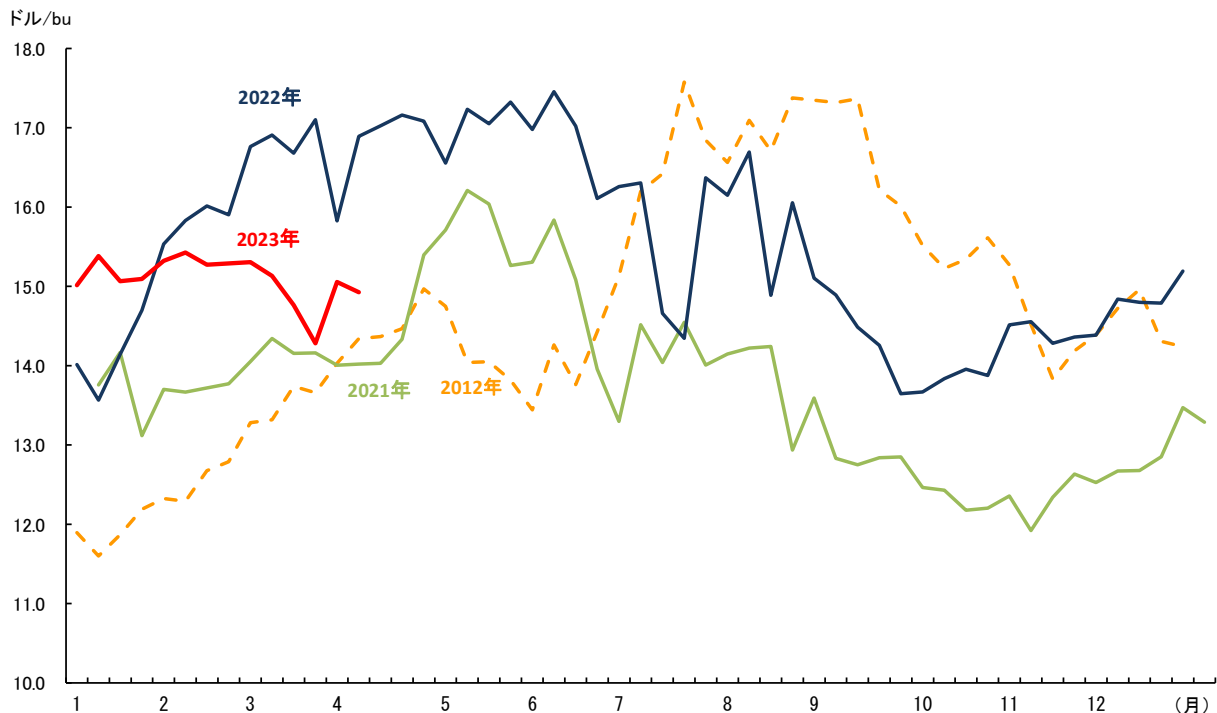
● 大豆：14.93ドル/bu（前年同時期の価格：15.83ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における2023年3月第1週末のセトルメント価格。なお、4月7日(金)は休場のため、6日(木)の価格。史上最高値：17.71ドル/bu(2012年9月4日)】

1月に入り、原油相場下落や世界的な景気減速等から14ドル/bu台半ばに値を下げたものの、干ばつによるアルゼンチンの減産懸念等から15ドル/bu台半ばに値を上げた。その後、アルゼンチンの降雨予報、ブラジルの豊作予想等から14ドル/bu台後半に値を下げたものの、米国産の輸出需要増や、ブラジルの収穫遅延、アルゼンチンの乾燥天候予測等から15ドル/bu台前半に値を上げた。

2月に入り、ブラジルの豊作見通しや中国の輸入需要の減退懸念の一方、アルゼンチンの高温・乾燥による減産懸念や大豆粕価格の上昇、ブラジル主産地での降雨による収穫遅れ等から2月下旬にかけ15ドル/bu台半ばに上昇したものの、2月下旬以降、記録的な豊作が見込まれるブラジル産と米国産との輸出競争の激化懸念から14ドル/bu台後半に値を下げた。

3月に入り、アルゼンチンの高温・乾燥による減産懸念や大豆粕価格の上昇等により、3月初旬に15ドル/bu台半ばに値を上げたものの、ブラジルの豊作見通しと収穫進展による米国産の輸出減少懸念、原油安等から14ドル/bu台前半に値を下げた。その後、アルゼンチンにおける干ばつによる供給減少予測や、米国で作付意向面積が伸び悩んだこと等から値を上げ、3月末現在、15ドル/bu前後で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セトルメント)である。
 グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.41
2019年	2020年	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
108.99	106.78	103.70	105.36	108.65	109.13	109.19	110.11	110.29	109.84	110.17
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
113.10	114.13	113.87	114.83	115.20	118.51	126.04	128.78	133.86	136.63	135.24
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
143.14	147.01	142.44	134.93	130.20	132.68	133.85				

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
45.01	48.22	46.28	52.33	55.71	56.55	61.85	69.35	81.39	77.18	77.99
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
80.26	66.15	64.43	60.23	58.96	69.99	71.65	73.90	70.12	61.28	55.02
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
51.90	56.61	49.34	49.51	45.62	42.50	48.46				

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC
Grain Market Indicators」
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

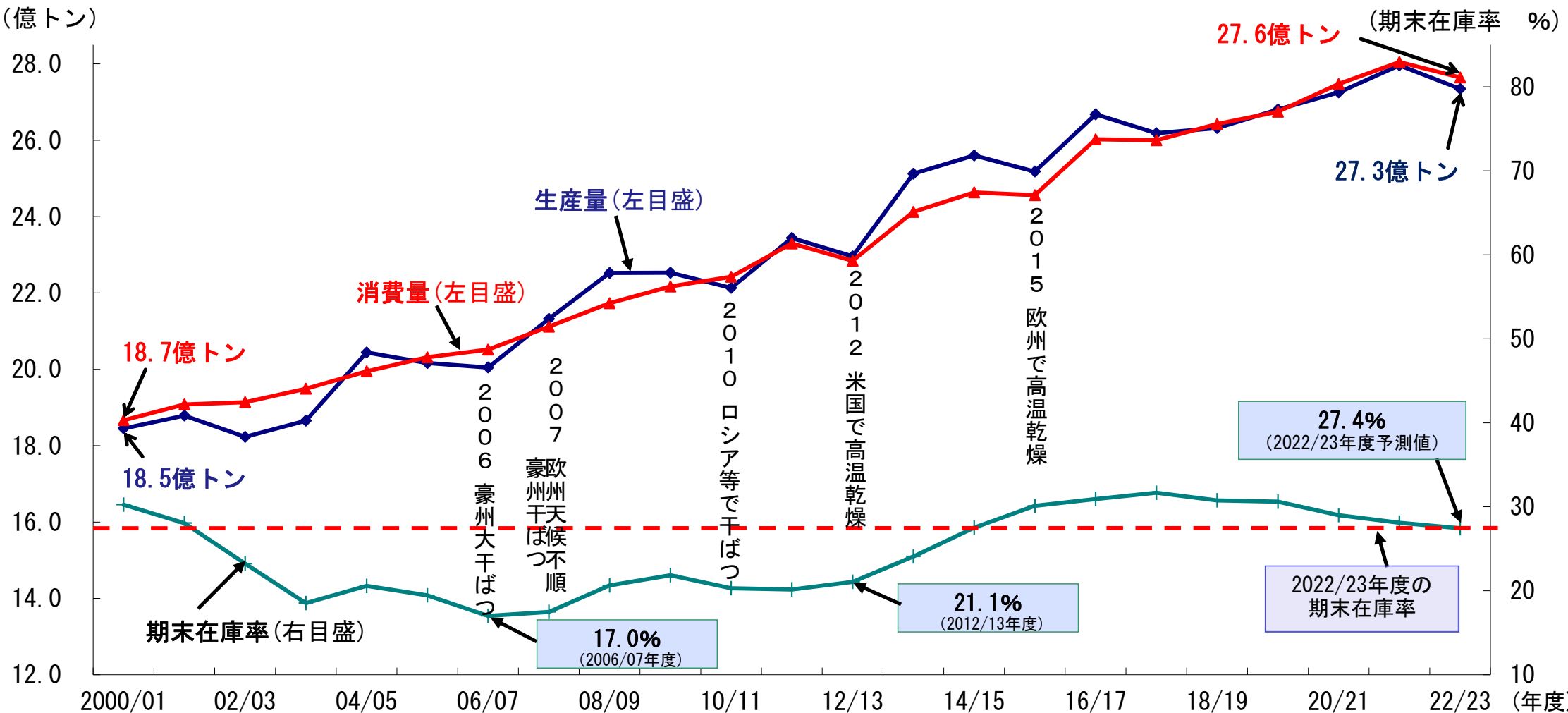
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	64.77
2019年	2020年	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
57.03	39.40	52.10	59.06	62.36	61.69	65.16	71.35	72.43	67.71	71.54
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
81.22	78.65	71.69	82.98	91.63	108.26	101.64	109.26	114.34	99.38	91.48
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
83.80	87.03	84.39	76.52	78.16	76.86	73.28				

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」令和5年3月, 124頁
但し、2023年3月 は、米国エネルギー情報局(U.S.Energy Information Administration)「Weekly Petroleum
Status Report」の日次データの平均値

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2022/23年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2022/23年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、27.4%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.1%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(April 2023)、「PS&D」
 (注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。